

令和4年 第6回長泥地区除染検証委員会議事録

1. 日 時 令和4年12月27日（火） 13:30～15:30

2. 場 所 飯舘村役場 2階 第一会議室

3. 出席者

委 員：塚田委員長（福島大学）秋光副委員長（東京大学）、林委員（国立環境研究所）、万福委員（農業・食品産業技術総合研究機構）

オブザーバー：（環境省福島地方環境事務所）中村課長、吉田課長
（内閣府原子力被災者支援チーム）辻本参事官

飯舘村：佐藤（村づくり推進課長）、三瓶（産業振興課長）、高倉（農政第二係長）、高野（企画定住係）、今井（農政第二係）

4. 配布資料

資料1 第5回長泥地区除染検証委員会議事録（案）

資料2 長泥地区除染検証委員会における検証結果報告（案）

参考資料1 1工区除染進捗状況及び除染等作業員の線量情報

5. 議事

【事務局より、資料1の説明】

（塚田委員長）修正等があれば委員会が終わるまでに報告してほしい。

【環境省より、参考資料1の説明】

（塚田委員長）日平均線量は1人の個人についての最大値と最小値という認識でよい。

（中村課長）その通り。1ヶ月で見た場合の最大値と最小値となっている。

（秋光副委員長）最大値を使ったとしても職業被ばくの線量限度と比べて十分低く問題はないと確認できる数値となっている。

【事務局より、資料2の説明】

（林委員）①放射線量管理に関する対策の2行目では「未除染部分」という表記だが、② 森林等の未除染箇所への対策では「未除染箇所」という表記であるため、統一した方がよい。

①放射線量管理に関する対策の11行目に「リスクコミュニケーション」という表記があるが、どういう主体が実施しているのか、村職員が一人ひとり対応をしなければならない業務となっているのか教えてほしい。

② 森林等の未除染箇所への対策の最後の部分で、「個人被ばく線量を携帯し、空間線量測定器にて空間線量率を測定」という表記があるが、森林等の未除染箇所への立ち入る際には個人被ばく線量計を携帯し、かつ、空間線量測定器にて測定することなのか。もしそうだとしたら「個人被ばく線量を携帯するとともに、空間線量測定器にて空間線量率を測定」のような表現にしたほうがよいと思う。

(塚田委員長)「未除染部分」と「未除染箇所」の表現は統一する。

(事務局) 現在、環境省事業にて原安協の方が住民に積算線量計を貸し出し、返却の際に放射線に関するアドバイス等を行っている。また、その他個別に相談があった際は対応している。このようなことがリスクコミュニケーションになるのではないかと考えている。

(塚田委員長)「リスクコミュニケーション」という表現はかなりかっちりした内容になってしまうので、もう少し柔らかい表現にして「放射線に関する知識の周知、徹底」等にすると、村が考えているような包括的な意味合いになってくるので、そのような表現に修正する。

(事務局)「個人被ばく線量を携帯し、空間線量測定器にて空間線量率を測定」については林委員の意見のとおりだと思うので修正する。

(塚田委員長) 残る未除染地域はどのようなところか。

(中村課長) 地形的にすぐには手をつけられない中州のような場所のこと。

(塚田委員長) 今後のスケジュールを教えてほしい。

(事務局) 今回の内容を事務局で修正し、メール等で委員の方に確認いただき、確認後、村長に提出する予定。

次回の村議会は3月だが、いずれにしても村議会には報告する。

最終的には国の原子力災害対策本部の決定をもって避難指示の解除日がきまってくる流れとなっている。

当面はこの報告書を修正して委員の方に内容を確認いただき、委員長から村長に渡していただいて今年度の検証委員会は終了となる予定となっている。

【事務局より、その他の説明】

今後、継続して審議

次回の日程については、令和5年1月19日か20日で調整することとした。